

とびら あ
扉を開けて

じ どうぶんがくさっ か せいがくいんだいがくきょうじゅ
児童文学作家、聖学院大学教授

まつもと ゆう こ
松本祐子

みなさんは今、同じ年齢のクラスメートたちと毎日いっしょに楽しく過
ごしていることでしょうか。ごく当たり前の日常ですが、学校を卒業すれば
実はそれが学生時代だけの特別な状況であることに気付くはずです。

どうねんれい どうしつ しゅうだん なか とくてい かちかん そ
同年齢の同質な集団の中にと、ある特定の価値観だけに染まってし
まいがちですが、世の中にはいろいろな価値観があり、別の角度からなが
めると、物事はまったくちがって見えることがあります。学校の外には無
数の世界が広がっており、そこに通じる扉はいたるところに存在するのです。

こ 子どものころから物語が大好きだった私の場合、本のページを開くことも
べっ せ かい とびら ひら おも
別世界への扉を開くことだったように思えます。

わたし がっこう ぶたい ものがたり か しゅじんこう なん なや
私が学校を舞台にした物語を書くとき、主人公はたいてい、何らかの悩
みを抱えています。自分らしい生き方を見つけることがそう簡単ではない
からです。今いるこの場所だけがあなたの世界ではない。だからみなさん
も、小さく閉じこもったまま、世界はこんなものだと決めつけたりせず、新
しい可能性の扉を開くために、とにかく先へ進みましょう。もちろん、バ
ラ色の未来が約束されているわけではなく、無防備のまま出て行けば、傷つ
くこともあるでしょう。願わくは、あなたを守る力となる知恵と知識を身
につけ、真実を見抜く目をもって、未来にはばたいてください。

※ 松本祐子さんは、読書感想文コンクール課題図書となった「8分音符のプレリュー
ド」をはじめ、「天使たちのラブソディ」シリーズなどの、著書があります。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会

いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にさせていただくようお願いいたします。